

平成26年度「職員研修会」を開催!!

——秋田県土地改良事業団体職員会が研修会を開催——



8月29日(金)、秋田県土地改良事業団体職員会(会長 藤岡義博)主催による「平成26年度職員研修会」が、まだ残暑の厳しい中、にかほ市で実施され、県内土地改良区の職員約80名が参加した。

この研修会は、県内土地改良区職員の資質の向上を図るとともに親睦の輪を広げようと毎年企画されているもので、今回は同職員会由利支部の協力を得て、各土地改良施設などを視察研修した。

研修では、初めに「金浦温水路(にかほ市金浦)」を訪れ、冷水害対策として、かんがい用水の温度を上げるための構造上の工夫や管理体制などの説明を受けたほか、農林水産省の疏水百選に認定された「上郷温水路群」では、14℃前後の水温に実際に触れながら説明を受けた。また、地域の貴重な水源として鳥海山の伏流水が勢い良く流れ落ちている「元滝」では、幻想的な水の流れと清涼感を体験することができた。

午後からは、明治大正期の農事改良家で、「乾田馬耕」を普及させた斎藤宇一郎記念館を視察し、湿田を乾田に改める農業改革事業や、国會議員として地方開発に取り組んだ功績を辿った。

参加者は、暑い中ではあったが普段訪れることがない水利施設の視察を行ったり、農業改革の取り組んだ功績者の偉業を学んだりと幅広い分野の見識を習得していた。



金足農業高校から インターンシップ

今年も2名の生徒が
水土里ネット秋田にやってきました



7月30日～8月1日の3日間、水土里ネット秋田に金足農業高校から2名の生徒が就業体験に訪れました。いずれも「環境土木」を専攻している生徒達で、学校の実習では「測量」も行うそう。研修では、ビデオ等を用いた本会の概要説明や、新卒職員へのインタビューから職場での実体験紹介、ISOの取り組みに関するなどを講義形式で学びました。その後、施設の視察研修として八郎潟南部排水機場にて干拓の歴史や、排水機・防潮水門の施設見学、ため池調査や水土里情報システムのデータ作成などを行いました。

実際に職員の話を聞いた生徒達は、「研修に来る前までは水土里ネットがどのような仕事をしているのか分からなかつたけれど、3日間の体験を通して農業には欠かせない土台作りを行っている仕事だと分かった」と話していました。

今後も、継続した受け入れを行い、生徒達の将来の進路選択の参考と「水土里ネット」の理解が深まるよう協力して行きたいと思います。

下流の農業者を考え、直轄外の水路まで「ゴミ」処理 ～9月26日秋田県雄物川筋土地改良区の管理施設を現地踏査～

1 皆瀬1号幹線(石成分水工)横手市平鹿町

■何れも直接管理のため、職員がゴミ処理を実施。(7人程度)

4～5人は季節雇用者を雇って対応。

■かんがい期(5月6日～9月5日)は胴長を着用し、雪ベラなどを使って毎日処理。

《ゴミの種類》

りんごの生ゴミ、サクランボのハウスビニールなど捨てた場所の特定ができそうなものが多く流れできている。



2 石成分水工の上流で皆瀬1号幹線をサイホンで横断する直轄外の水路

■この水路は十文字の町中を流れしており、生活に密着している。

■直接土地改良区の管理ではないが、幹線を横断している水路なので、以前から管理している。(ゴミが溜まると住民から苦情の電話が殺到する)

■サイホンは、一見危険そうには見えないが、落ちると深く引きずり込まれてしまう。

《ゴミの種類》

ペットボトルや食べ物のトレーなどの生活ゴミ、処理が大変なポンベ缶など。



土地改良区の意見

肉体労働として職員への負担が大きいのはもちろんであるが、合併前はゴミ処理の費用負担があり、まだ頑張れた。せめて処理費用だけでも、また横手市でバックアップを行ってくれると助かる。



▲今度収集してもらう予定のコンテナ。費用はすべて土地改良区負担

「あきた体験農園」大住小学校の児童とさつまいも掘り



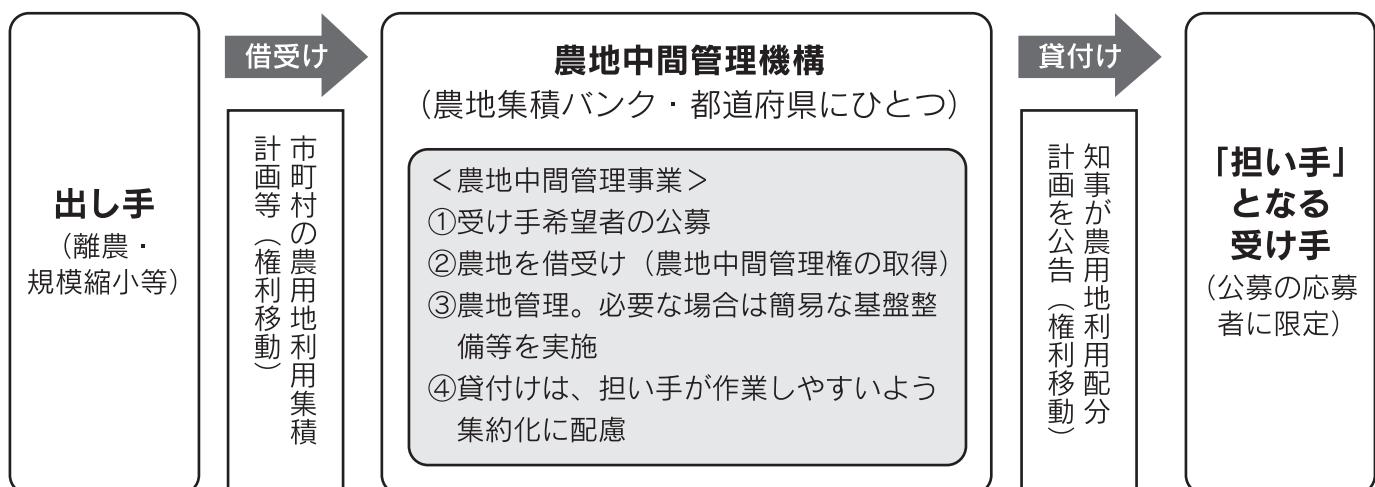
10月9日、秋田市立大住小学校の3年生103人と一緒に、春から育ててきたサツマイモの収穫を行いました。農園の黒崎代表が「人間も作物も1日も無駄な日は無い。作った人の努力に感謝して、『いただきます』『ごちそうさま』を言えるようにしましょう」と挨拶し、大住小学校の安宅校長も「皆さん、サツマイモに負けていませんか。春から頑張って育ててきたサツマイモも収穫するとここで終わり、皆さんの栄養となるのです。皆さん、心も体も今後ますます成長させて下さい。芋掘り頑張って！」と、気合いを入れていました。子ども達は慣れない作業に最初は戸惑い気味でしたが、一つ芋を取る要領を覚えると、後は我先にとまだ掘り終えていない所に向かっていました。児童は「最初植えたときは育つかなと思ったけど、沢山育っていて良かった。雑草を抜いて大きく育ててくれてありがとう。感謝の気持ちで美味しく食べたい」と感想を述べ、担当の先生は「ただ植えて収穫だけではなく、合間に草取りもあったので畑に愛着が湧き、楽しみにしていた。できた芋は持ち帰りして家でも成果を報告して欲しいと思う。また、今日収穫した芋を廊下で展示し、他学年にもサツマイモの成長を知らせたい」と体験農園での活動を次に活かす方法を考えていました。



(水土里ネット秋田事業調整センター)

1. 農地中間管理機構の仕組み

農地中間管理事業は、農家数の減少や高齢化が進む中、農地の集積によって規模拡大や場を集約化し、生産の向上を図ることを目的としている。



2. 平成26年度の借受希望者の公募について

(1)公募期間

[第1回] 平成26年7月1日～7月31日

[第2回] 平成26年10月10日～11月10日

[第3回] 平成26年12月19日～27年1月26日予定

(2)第1回借受希望者の公募結果

1)公募区域 県内25市町村(内訳 市町村全域…2、旧市町村単位…6、大字・字単位…17)

公募区域数 343区域(空白域なし)

2)応募状況

①借受希望経営体数と借受希望面積

	借受希望した経営体数			借受希望面積	
	うち法人	市町村外	新規参入	うち法人	うち法人
経営体数	1,455	207	54	6	8,111ha
					3,451ha

②1経営体当たりの借受希望面積の分布

借受希望面積(ha)	0～1	1～2	2～5	5～10	10～50	50～100
経営体数	247	401	518	173	99	17

○借受を希望する経営体数は、県内の認定農業者(9,482経営体)の15%で、法人においては県内の農業生産法人(338法人)の61%にあたる。

○100haの借受を希望する法人が8つあるなど、規模拡大や集約化により経営を強化しようとする意欲が表れている。

○公募区域のうち、応募のあった区域は274で全体の8割を占める。

3. 貸付希望者、貸付希望面積の申込状況とマッチング

(1) 貸付希望については、市町村(農業委員会)等で隨時受付しており、公募に応募した借受希望者との協議・調整(マッチング)を行い、貸し借りの条件が整った農地から順次「公社」に農用地利用集積計画及び農用地利用配分計画(案)を提出することになる。

(2) 貸付希望の申込み状況

	貸付希望者	貸付希望面積
10月20日	796名	927ha

(3) マッチング状況

9月から公社借入れ貸付けの書類を受付しており、現在、横手市において79件、83.8haを農用地利用集積計画により借入れしている。貸付けについては書類が整い、秋田県に農用地利用配分計画を提出し、県が農用地利用配分計画を縦覧・公告して認可することにより、農地の貸付けとなる。

平成26年度の「地域集積協力金」は、12月末までに公社に貸付けられ、かつ、一定の要件を満たす農地が対象となる。また、出し手への「経営転換協力金」「耕作者集積協力金」については、平成27年2月末までに公社から転貸され一定の要件を満たす農地が対象となり、それ以降は27年度以降の対象となる。

4. 今後の取組について

(1) 公社では、平成26年度の「担い手」への農地集積目標を1,000haとしており、秋田県・地域振興局の指導のもと、市町村等関係機関の協力を得て引き続き地域への説明会や研修会等あらゆる機会を活用して「出し手」の掘り起しに努めることとしている。

(2) 秋田県の本庁及び各地域振興局単位に推進チームが設置され、各地域振興局毎に**重点地区**を定めて本年度以降の事業の一層の推進に努めることとしています。

管内名	市町村(旧市町村)	地区名	農家戸数	農地面積	備考
鹿角	鹿角市(十和田)	末広	99戸	124ha	指定済
北秋田					検討中
山本					〃
秋田	秋田市(雄和)	雄和平沢	88戸	115ha	指定済
由利	由利本荘市(鳥海)	平根	68戸	76ha	指定予定
仙北	大仙市(中仙)	金鑑	26戸	36ha	指定予定
〃	〃(太田)	小神成	31戸	41ha	指定予定
平鹿	横手市(十文字)	二ツ橋	34戸	88ha	指定済
雄勝					検討中

